

令和 5 年 6 月 定例会 行政報告

1 . 一 般 行 政 報 告

- 1) 要望等について
- 2) 寄贈金品について
- 3) 作況状況及び公共牧場、各牧野の入牧状況について
- 4) 中標津空港の利用促進について
- 5) 令和 5 年度建設工事の発注状況について

令和 5 年 6 月 1 9 日

中 標 津 町

貴重な時間をお借り致しまして、３月定例会以後の行政報告を申し上げます。

1. 要望等について

第１点目は、要望等についてであります。

１）最初に、根室地方総合開発期成会としての要請活動であります。

３月１６日、公明党 山口代表が来釧した際、「根室地方の地域づくり・総合開発に関する要望」として、昨今の急激な物価高騰により深刻な打撃を受けている医療施設への物価高騰対策支援をはじめ、喫緊の課題である少子化対策については、出産・子育て応援交付金の予算確保に加え、趣旨を同じくする地方の取組への財源として充当を可能とする交付金制度の運用方法の緩和などについて要請致しました。

２）次に、北海道自治体病院開設者協議会としての要請活動であります。

５月２３日、道内選出国會議員３３名に対し、「地域医療の充実に関する要望」として、医師の働き方改革に向けた支援、医師・看護師等の確保対策、周産期医療及び救急医療の体制整備、へき地医療の充実など、地域の実情に応じた実効性のある対策について要請致しました。

３）次に、北方領土隣接地域 振興対策 根室管内市町連絡協議会としての要請活動であります。

ロシアによるウクライナ侵攻に伴い、長年積み重ねられてきた平和条約交渉が中断し、さらに北方四島交流等事業の実施が停止されるなど、日露関係は極めて厳しい状況が続いていることから、北方領土問題が置き去りにされ、関心が薄れていくことが懸念されます。

この状況を打開するため、6月13日、岸田内閣総理大臣、林外務大臣、岡田内閣府特命担当大臣を訪問し、ウクライナ情勢の一日も早い収束、そして、平和条約締結交渉の再開に最大限努めていただくとともに、より一層の北方領土問題の啓発推進はもとより、「北方参参をはじめとする北方四島交流等事業の早期再開」、「隣接地域における振興対策等の充実・強化」、「高齢化が著しい元島民に対する援護対策の推進」などについて要望致しました。

4) 次に、医師確保に係る要請活動であります。

4月20日から21日にかけて、道内各医育大学等に対し、町立中標津病院の現状及び診療体制の報告、地域医療が抱える課題等について意見交換を行うとともに、地域医療の確保をはじめ地域センター病院としての診療科の確保を図るため、医師の継続派遣について要請を行ったところであります。

2. 寄贈金品について

次に、2点目は、寄贈金品についてであります。

お手元に配付のとおり、3月定例会後に、

物品で	8 件	
現金で	4 件	6, 200, 000 円
ふるさと納税で	842 件	15, 436, 400 円

の寄贈がございました。

また、企業版ふるさと納税制度として 令和5年5月31日現在で
1 件 1, 000, 000 円の寄附金がございました。

寄贈金品を寄せられました方々に、改めて深く感謝を申し上げます。

3. 作況状況及び公共牧場、各牧野の入牧状況について

次に、3点目の作況状況及び公共牧場、各牧野の入牧状況について
であります。

6月1日現在、根室農業改良普及センター発表の、農作物生育状況
調査によりますと、牧草では、総じて降水量は平年を下回りましたが、
日照時間及び平均気温は平年を上回ったこともあり、生育は順調で、
平年より2日程成長が早まっております。

てん菜につきましては、好天に恵まれたこともあり、移植作業は平
年より3日早く作業は終了しており、生育についても、平年より1日
早まっております。

馬鈴薯につきましては、植付作業は平年並みに進み作業は既に終了
しております。

飼料用トウモロコシにつきましては、播種作業がやや早く進み、平
年より2日早く終了しております。

その他大根の播種、ブロッコリーの定植につきましても、概ね平年通りとなっており、作業は順調に進んでいるとのことであります。

今後の天候ですが、札幌管区気象台発表の3か月予報によりますと、気温と降水量につきましても、平年並みの予報となっておりますので、農作物が順調に生育し、豊穰の秋が迎えられることを願うものでございます。

次に、公共牧場及び各牧野の入牧状況であります。

まず、町営の開陽台牧場への入牧でございますが、本年は5月23日、26日、29日の3日間を中心に合計784頭が入牧しました。

また、各牧野におきましても、順次入牧を行っておりまして、JA計根別及び町内4牧野の入牧頭数は、1,300頭程度になると報告を受けております。

放牧期間中におきましては、家畜保健衛生所の指導の下、予防検査を実施し、適切な牧野衛生に努め、事故のない牧場運営を心がけてまいりたいと存じます。

次に、生乳生産についてでございますが、生乳生産抑制を行う中、令和4年度の本町の生乳生産量は219,100tで令和3年度の216,800tに比較し、2,300t、率にして1.1%の増となりました。

今後も後継牛の確保を行いながら、1日も早く生乳生産抑制が解除されることを期待しております。

4. 中標津空港の利用促進について

次に、4点目の中標津空港の利用促進についてであります。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受けた航空業界ですが、5類感染症移行に先立ち行われた水際対策の緩和による訪日客の増加や、ゴールデンウィーク中の国内線利用はコロナ禍前と同水準まで回復したと航空各社から公表されるなど、いよいよポストコロナの時代に本格突入致しました。

それでは、令和4年度の中標津空港の利用状況でございます。

令和4年度は計画欠航もなく、搭乗者数は前年を上回ったものの、1月から3月にかけて新型コロナ感染拡大による第6波の影響で、春先からのハイシーズンの利用者の伸びがなく、また感染者が多かった夏場の第7波も影響し、コロナ前の状況には届かない利用実績となりました。

路線別では、東京便は前年より3万人増の5万5千人で、搭乗率は12ポイント増の45%、札幌便の利用者数は、前年より3万2千人増の8万9千人で、搭乗率は9ポイント増の56%でした。

東京便、札幌便を合わせた定期便の利用者合計は、前年度より6万2千人増の14万4千人で、搭乗率は10ポイント増の51%となりました。

定期便以外では、フジドリームエアラインズのチャーター便が、初の試みとしてゴールデンウィークからの運航開始となりました。

これにより、ゴールデンウィーク期間は4路線22便、搭乗者数延べ9百人、夏季運航は16路線54便、搭乗者数延べ4千5百人、冬季運航は3路線8便、搭乗者数延べ4百人の、全84便が運航し、搭乗者数延べ5千8百人となったところです。

今後の見通しにつきましては、経済社会活動が急速に正常化し、持ち直していくことが期待される一方で、電気料金の高騰や更なる物価上昇の懸念、また、長引くロシアによるウクライナ侵攻に伴う世界経済への影響、世界的なインフレなど航空業界・観光業界に与える影響は依然として大きいと予測されますが、そのような中、北京―新千歳線が7月に再開するとの明るいニュースもあり、夏以降のインバウンドの需要も期待されるところです。

本町としましては、引き続き空港関係機関と協力して、ポストコロナに向けた定期便の需要回復と、チャーター便の就航に向けて、世界自然遺産・知床の空の玄関口として恵まれた環境を生かし、なお一層の利用促進・旅客需要の喚起に積極的に取り組んでまいります。

5. 令和5年度建設工事の発注状況について

次に、5点目の令和5年度建設工事の発注状況についてであります
が、令和5年5月31日現在でご報告申し上げます。

令和5年度の発注計画は、件数143件、金額にしまして、
25億5,576万円ほどであります。

これに対し、発注状況ですが、件数で74件、率にしまして、

52%となっております。

金額では、13億3,942万円、率にしまして、52%の発注と
なっているところであります。

以上、5点についてご報告申し上げ、一般行政報告といたします。